

Classic Pro

PAeZII

PORTABLE PA SYSTEM

取扱説明書

Ver. 1.0



株式会社サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3

TEL: 0476-89-1111 FAX: 0476-89-2222

<https://www.soundhouse.co.jp> E-mail: shop@soundhouse.co.jp

ご使用上の注意

- けがや事故、機器の損傷を防ぐため、以下の事項を必ず守ってください。
- この取扱説明書に従って操作してください。
- 開梱後、輸送中の衝撃などによる損傷がないか確認してください。
- 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動および輸送時には衝撃が加わらないようにしてください。
- 本製品は最大90dB SPL以上の音圧を発生することがあります。長時間、大音量で使用すると聴覚障害の原因となるため、適切な音量でご使用ください。
- 雨、水がかからないよう十分ご注意ください。
- ラジエーター、ヒーター、ストーブ、その他の熱源の近く、高温になる場所への設置を避け、通気性の良い場所でご使用ください。
- 定格電圧AC100～240V、50/60Hzでご使用ください。
- スピーカーキャビネットをスピーカースタンドやその他のスタンドに設置する場合は、以下の点に注意してください。
 - *スタンドは平坦で滑りにくい場所に設置してください。
 - *スタンドの脚は可能な限り大きく開いてください。
 - *固定ノブを確実に締め付けてください。
- ハウリングが発生しないよう、音量やマイクの位置を調整してください。
- パワーアンプの電源が入った状態で信号ケーブルの抜き差しを行わないでください。
- 本製品を掃除する際は乾いた布を使用してください。
- 電源コードを踏んだり、押しつぶしたりしないようにしてください。
- 外装を外したり、分解や改造をしないでください。感電や火災、故障の原因となります。修理やメンテナンスが必要な場合は、必ず販売店へご依頼ください。

はじめに

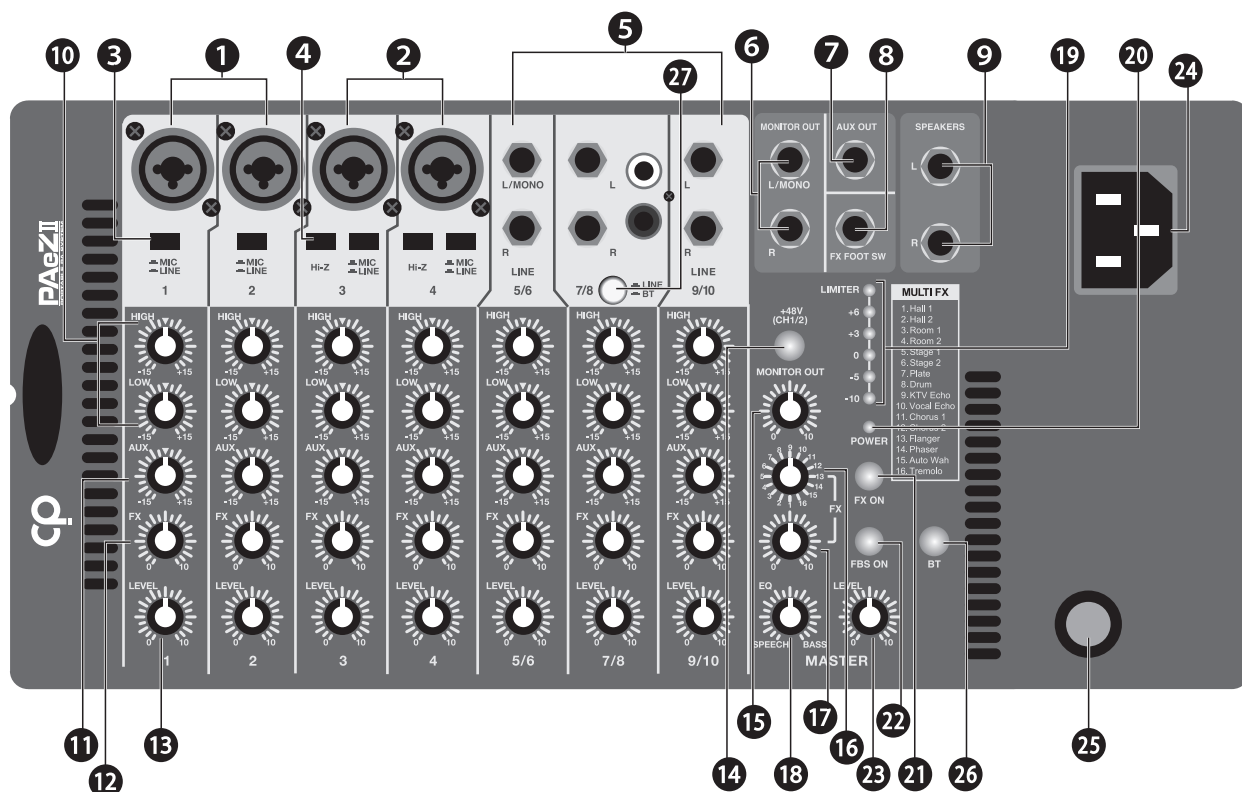
このたびは、CLASIC PROのポータブルPAシステム「PAeZII」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、パワードミキサーと2台の10インチ・パッシブスピーカーで構成された多機能なポータブルPAシステムです。180W×2の高出力CLASS-D/パワーアンプにより、会議や講演会、学校行事、イベント、ライブ演奏、店舗でのBGM・アナウンスなど幅広い用途で活躍します。マイク、楽器、音楽プレーヤーなど多彩な機器を接続でき、BT音楽再生や16種類のマルチエフェクト、ハウリングを自動抑制するFBS(フィードバック・サプレッサー)機能を搭載し、初めての方でも快適に使用できます。

主な特長

- 10チャンネル入力(モノラル入力×4、ステレオ入力×3)
- 各チャンネルに、2バンドEQ、AUX、FX、レベルコントロール
- +48Vファンタム電源対応(ch1、ch2)
- Hi-Z(ハイインピーダンス)入力(ch3、ch4)
- 16種類のマルチエフェクト
- ハウリングを自動抑制するFBS機能
- 高出力、低歪みの180W×2 CLASS-D/パワーアンプ
- BT音楽再生対応
- 60Hzをブースト/カットするSPEECH/BASSコントロール
- AUX出力(モノラル)、MONITOR出力(ステレオ/モノラル)
- FX ON/OFF用フットスイッチ端子(アンラッチ)
- ミキサー用スタンド付属(高さ80～120cm)
- 35mmポールマウント、およびフロアモニター設置に対応

各部の名称と機能



① マイク/ライン入力 (ch1、ch2)

XLR端子およびTRSフォン端子に対応したマイク/ライン入力です。+48Vファンタム電源供給可能です。

② マイク/ライン/Hi-Z入力 (ch3、ch4)

XLR端子およびTRSフォン端子に対応したマイク/ライン/Hi-Z入力です。

③ MIC/LINEスイッチ (ch1-4)

マイクなど出力レベルの低い機器を接続する場合は「MIC」、キーボードなど出力レベルの高い機器を接続する場合は「LINE」を選択します。

④ Hi-Zスイッチ (ch3、ch4)

プリアンプを搭載していないエレキギターやベースなど、出力インピーダンスの高い機器を接続する場合に押します。DI(ダイレクトボックス)を使用せずに、本機へ直接接続できます。

⑤ ステレオライン入力 (ch5/6、7/8、9/10)

TSフォン、RCA、BTに対応したステレオライン入力です。

ch5/6: CH5 (L/MONO) のみに接続した場合は、モノラル入力として使用できます。

ch7/8: LINE選択時にTSフォン端子へ入力すると、RCA入力は無効になります。

BT選択時はBT入力が無効になります。

⑥ MONITOR OUT (ラインレベル)

ch1-10のミックス信号を出力するTSフォン端子です。L/MONO端子のみを使用した場合は、L+Rのモノラルミックス信号を出力します。出力レベルはMONITOR OUTつまみで調整します。各チャンネルのLEVELつまみの影響を受けますが、MASTER LEVELつまみの影響は受けません。

⑦ AUX OUT (ラインレベル)

ステージモニターや外部機器へ信号を送るためのTSフォン端子です。FXの前段(EQ後段)の信号を出力します。各チャンネルのAUXつまみで送出レベルを調整します。LEVELつまみの影響は受けません。メイン出力とは異なるミックスバランスで信号を送ることができます。

⑧ FX FOOT SW

アンラッチタイプのフットスイッチを接続し、エフェクトのON/OFFを操作します。

⑨ SPEAKERS

パッシブ・スピーカーを接続します。

⑩ 2バンドEQ

HIGH(高域)、LOW(低域)をブースト、またはカットします。

⑪AUX

各チャンネルからAUX出力へ送られる信号のレベルを調整します。

⑫FX

各チャンネルから内蔵エフェクターへ送られる信号のレベルを調整します。

⑬LEVEL

各チャンネルの音量を調整します。

⑭+48Vスイッチ (ch1、ch2)

+48Vのファンタム電源をON/OFFするスイッチです。スイッチを押すとLEDが点灯します。

⑮MONITOR OUTつまみ

MONITOR出力のレベルを調整します。

⑯FX選択つまみ

エフェクトを選択します。

⑰FXパラメーターつまみ

エフェクトごとに設定されているパラメーターを調整します。

⑱SPEECH/BASSつまみ

SPEAKERS出力の低域(60Hz)を調整します。SPEECHはカット、BASSはブーストします。

※AUX OUT、MONITOR OUTへの音声には影響しません。

⑲LEDレベルメーター

SPEAKERSから出力される信号レベルを表示します。LIMITERは、出力レベルが大きすぎる場合に点灯します。ピークレベル時にLIMITERが一瞬だけ点灯する程度に、MASTER LEVELを調整してください。

⑳POWER LED

電源スイッチをオンにすると点灯します。

㉑FX ONスイッチ

このスイッチを押すと、FX(エフェクト)がONになり、LEDが点灯します。

㉒FBS ONスイッチ

このスイッチを押すと、ハウリング自動抑制機能がONになり、LEDが点灯します。

㉓MASTER LEVEL

メインスピーカー(SPEAKERS L、R)のレベルを調整します。

㉔電源コネクター

電源コードを接続します。

㉕POWERスイッチ

本機の電源をオン/オフします。

㉖BTスイッチ

長押しするとBT LEDが点滅し、BTペアリングを開始します。接続機器のBluetooth設定から「PAeZII」を選択し、接続が完了するとLEDが点灯します。ペアリング後は、BT音楽再生中にLEDが点滅し、再生停止時は点灯します。

㉗LINE/BTスイッチ (ch7/8)

「LINE」の時はステレオライン入力を使用し、「BT」の時はBT入力を使用します。

クイックスタートガイド

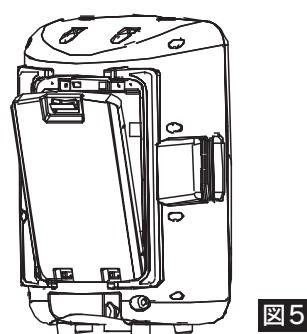
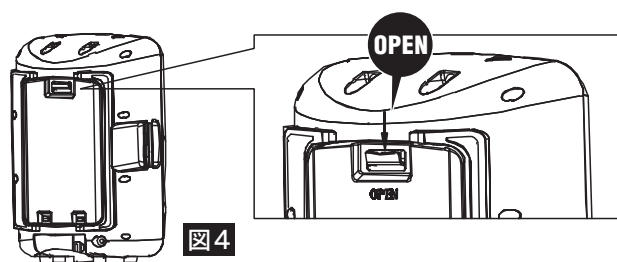
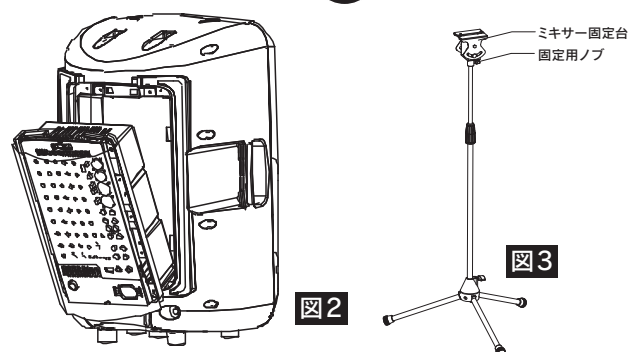
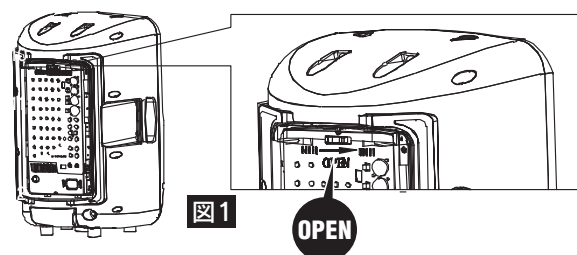
- 1 ミキサー上部のロックスイッチをスライドさせて解除し、ミキサーをゆっくり取り出します。(図1、2を参照)
- 2 付属のミキサー固定台をスタンドに取り付け、ノブを締めて角度を固定してください。(図3を参照)
- 3 ミキサーをミキサースタンドに取り付けます。
- 4 バッススピーカーの背面から付属品を取り出します。(図4、5を参照)
- 5 接続例 (P.6) を参照し、システムを正しく接続してください。
- 6 ミキサーの各チャンネルのLEVELつまみおよびMASTER LEVELつまみを最小位置に設定します。また、EQ (HIGH/LOW) はセンター位置に設定してください。
- 7 MIC/LINEスイッチを接続する機器に合わせて設定します。

マイクなどの小さい信号を入力する場合は「MIC」に設定します。

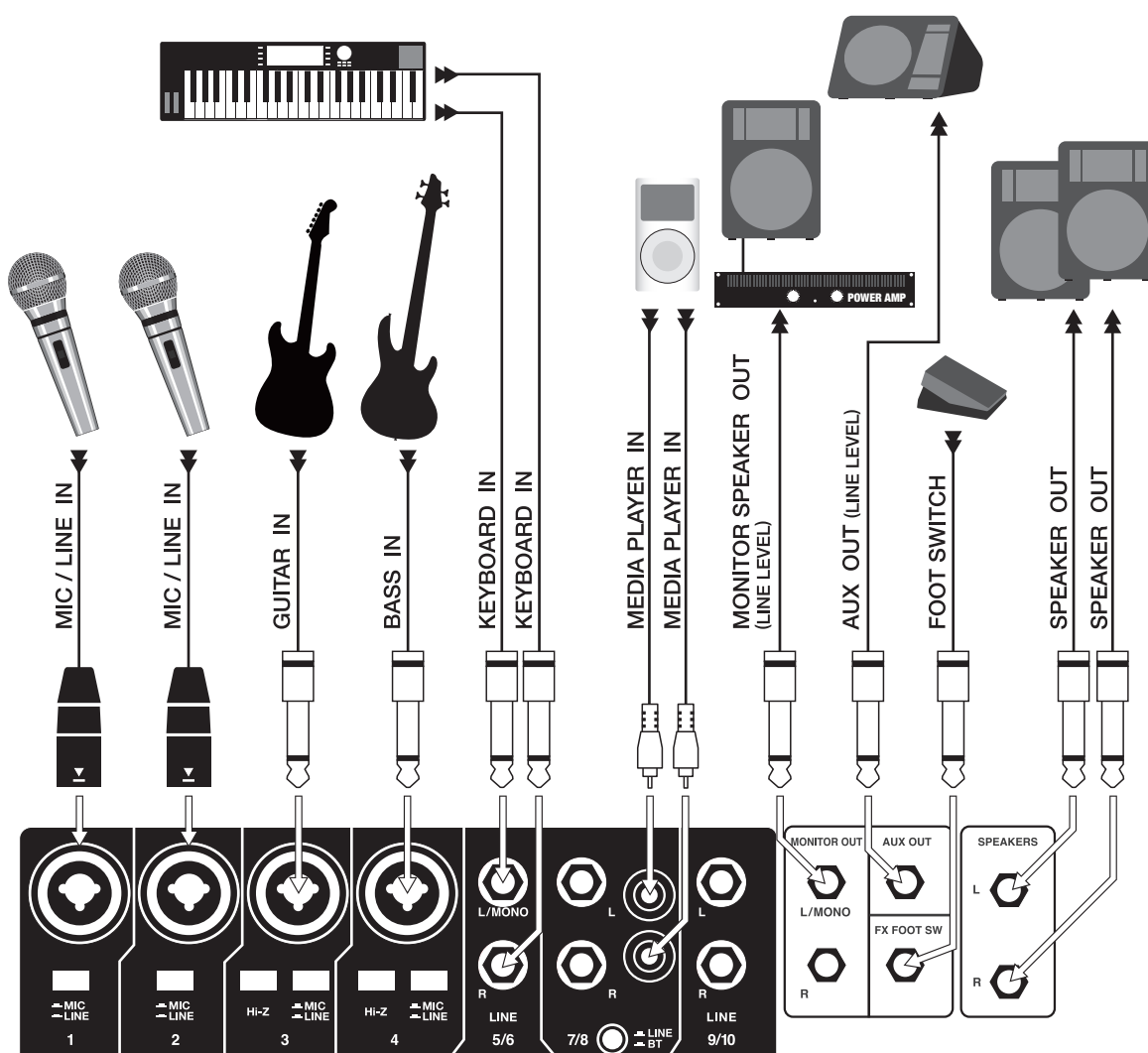
キーボードやオーディオ機器などの大きい信号を入力する場合は「LINE」に設定します。

- 8 すべての機器が正しく接続されていることを確認します。
- 9 周辺機器の電源を入れた後、PAeZIIの電源をONにします。
- 10 MASTER LEVELつまみを12時の位置まで上げます。
- 11 マイクへの発声や楽器の演奏を行いながら、各チャンネルのLEVELつまみを調整します。
- 12 最後に、MASTER LEVELつまみで全体の音量を調整します。

注意: MASTER LEVELを上げすぎると、スピーカーやパワーアンプ、および聴覚に損傷を与える恐れがあります。音量は徐々に上げ、LEDレベルメーターのLIMITが常時点灯しない範囲で調整してください。



接続例



■マイクなどモノラル機器は、ch1～ch4に接続してください。

■キーボードなどステレオ機器は、ch5/6、ch7/8、ch9/10に接続してください。

注意：パッシブタイプのエレキギターやベースを直接接続する場合は、ch3またはch4に接続し、Hi-Zスイッチをオンにしてください。

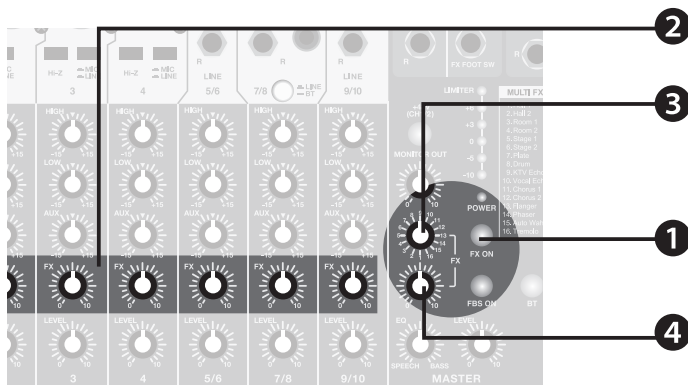
■ステージ用モニタースピーカーを追加する

パワースピーカー、またはパワーアンプ+パッシブスピーカーをAUX OUTに接続します。各chのAUXつまみでレベルを調整してください。AUX OUTは各chのLEVEL設定の影響を受けません。

パワースピーカー、またはパワーアンプ+パッシブスピーカーをMONITOR OUTに接続します。MONITOR OUTつまみでレベルを調整してください。MONITOR OUTは各chのLEVEL設定の影響は受けませんが、MASTER LEVEL設定の影響は受けません。

エフェクトをかける

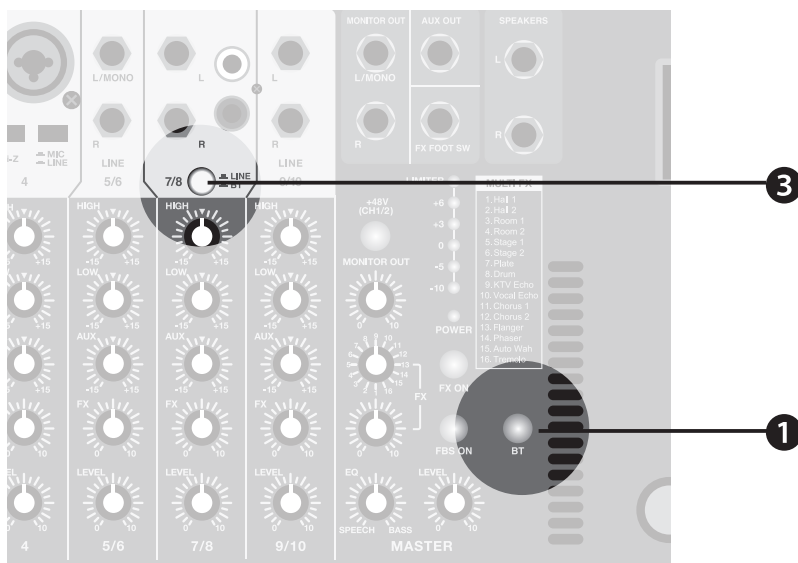
- ① FX ONスイッチを押します。
- ② FXつまみで、内蔵エフェクトへ送るレベルを調整します。
- ③ FX選択つまみでエフェクトを選択します。
- ④ FXパラメーターつまみで、エフェクトのかかり具合を調整します。



FXプログラム	操作できるパラメーター	調整範囲
1. Hall 1	Reverb time	500~9000mS
2. Hall 2	Reverb time	500~9000mS
3. Room 1	Reverb time	500~6000mS
4. Room 2	Reverb time	500~6000mS
5. Stage 1	Reverb time	500~9000mS
6. Stage 2	Reverb time	500~9000mS
7. Plate	Reverb time	500~6000mS
8. Drum	Reverb time	500~6000mS
9. KTV Echo	Reverb time	1500~3600mS
10. Vocal Echo	Reverb time	80~725mS
11. Chorus 1	LFO Frequency	0.25~20Hz
12. Chorus 2	LFO Frequency	0.25~20Hz
13. Flanger	LFO Frequency	0.25~20Hz
14. Phaser	LFO Frequency	0.25~9Hz
15. Auto Wah	LFO Frequency	0.25~9Hz
16. Tremolo	AM Depth	10~75 times

BT機器を使用する

- ① BTボタンを長押しします。(BTボタン=点滅)
- ② スマートフォン等の接続リストから「PAeZII」を選択します。(BTボタン=点灯)
- ③ ch7/8のLINE/BTスイッチをBTにします。
- ④ LEVELつまみで音量を調整します。(BTボタン=再生中:点滅、音声停止中:点灯)



※接続を中断するには、BTスイッチを長押しします (BTボタン=消灯)

再度BTスイッチを長押しすると、再接続します (BTボタン=点灯)

仕様

■主要規格

周波数特性	70 Hz～20 kHz (±3 dB) 60 Hz～20 kHz (-10 dB)
最大SPL (@1m)	122 dB
電源	AC100-240 V、50/60 Hz
消費電力	400W(最大)、100W(1/8)
寸法 (W×H×D)	スピーカー: 348×557×330 mm、ミキサー: 350×143×200 mm
質量	スピーカー 12.3 kg×2、ミキサー 4.4 kg
オプション(別売品)	フットスイッチ(アンラッチ)

■スピーカー

定格インピーダンス	4 Ω
出力	200 W(RMS) ×2
LFスピーカー	10 インチ
HFドライバー	1 インチ
カバレッジ(H×V)	90° ×60°
クロスオーバー	2.5 kHz
コネクター	フォン
ポールマウントソケット	35 mm

■ミキサー

Input Terminals			Input Impedance	Source Impedance	Input Level		
					Sensitivity	Nominal	Max.before Clipping
CH IN 1-2	XLR	MIC	4.7k Ω	150 Ω Mics	-46dBu	-35dBu	-10dBu
		LINE	4.7k Ω	150 Ω Mics	-18dBu	-9dBu	+16dBu
	TRS フォン	MIC	4.7k Ω	150 Ω Mics	-46dBu	-35dBu	-10dBu
		LINE	4.7k Ω	150 Ω Mics	-18dBu	-9dBu	+16dBu
CH IN 3-4	XLR	MIC	2.7k Ω	50 Ω Lines	-47dBu	-35dBu	-10dBu
		LINE	(Hi-Z 1M Ω)	(Hi-Z 10k Ω)	-19dBu	-9dBu	+16dBu
	TRS フォン	MIC	2.7k Ω	150 Ω Lines	-47dBu	-29dBu	-4dBu
		LINE	(Hi-Z 1M Ω)	(Hi-Z 10k Ω)	-19dBu	-3dBu	+22dBu
CH IN 5/6	TS フォン	LINE	5.6k Ω	150 Ω Lines	-12dBu	-3dBu	+22dBu
CH IN 7/8	TS フォン	LINE	5.6k Ω	150 Ω Lines	-12dBu	-3dBu	+22dBu
	RCA	LINE	5.6k Ω	150 Ω Lines	-12dBu	-3dBu	+22dBu
CH IN 9/10	TS フォン	LINE	5.6k Ω	150 Ω Lines	-9dBu	+3dBu	+28dBu

Output terminals		Output Impedance	Load Impedance	Output Level		
				Nominal	Max.before Clipping	Typ at THD+N 10%
speakers out(L/R)	TS フォン	<0.1 Ω	4 Ω	50W	180W	250W
MONITOR (L/R)	TS フォン	600 Ω	10k Ω	+4dBu	+20dBu	
AUX OUT	TS フォン	150 Ω	10k Ω	+0dBu	+20dBu	

ch1-4(マイク入力)

入力端子	XLR(バランス)
Frequency response:	55Hz~20kHz
THD&N:	0.09% at +20dBu,55~20kHz A-wt
S/N ratio:	<-79dBu

ch1-4(ライン入力)

入力端子	TRSフォン(バランス)
Frequency response:	55Hz~20kHz
THD&N:	0.08% at +20dBu,55~20kHz A-wt
S/N ratio:	<-79dBu

ch3-4(Hi-Z入力)

入力端子	TSフォン(アンバランス)
Frequency response:	55Hz~20kHz
THD&N:	0.08% at +20dBu,55~20kHz A-wt
S/N ratio:	<-79dBu

ch5/6、7/8、9/10(ライン入力)

入力端子	TSフォン(アンバランス)、RCA(アンバランス)
Frequency response:	55Hz~20kHz
THD&N:	0.08% at +20dBu,55~20kHz A-wt
S/N ratio:	<-79dBu

トラブルシューティング

■電源が入らない

使用している電源が不安定または接続不良の可能性があります。電源コードが正しく接続されているか確認し、壁のコンセントなどに接続し直してください。

■電源が切れる

- 音量が大きすぎる

音量が許容レベルを超えると、電源が自動的に切れます。ミキサーが冷えてから、電源を入れ直してください。ピークレベル時にLIMIT LEDが点滅する程度にMASTER LEVELを調整してください。

- ミキサーの通気口がふさがれている

通気口がふさがれて放熱が不十分になると、電源が自動的に切れます。ミキサーが冷えてから、電源を入れ直してください。

■音が出ない

- すべての外部機器（マイク、スピーカー、ミキサーなど）が正しく接続されているか確認してください。
- 各chのLEVELとMASTER LEVELが適切に設定されているか確認してください。
- スピーカーがSPEAKERS端子に正しく接続されているか確認してください。
- POWER LEDが点滅している場合、スピーカーケーブルの接続が誤っている可能性があります。スピーカーキャビネットとミキサーの接続を確認してから、電源スイッチを入れてください。

■歪みまたはノイズがある

- 各chのLEVELとMASTER LEVELが適切に設定されているか確認してください。
- MIC/LINEスイッチが正しく設定されているか確認してください。
- ch1-4の入力選択スイッチが正しく設定されているか確認してください。
- 入力信号が適切なレベルに設定されているか確認してください。

■音量が不足している

- 各chの LEVELとMASTER LEVELが適切に設定されているか確認してください。
- MIC/LINEスイッチが正しく設定されているか確認してください。
- 入力信号が適切なレベルに設定されているか確認してください。

■音にリバーブがかからない

- FX ONスイッチがオンになっているか確認してください。
- 各chのFXレベル、パラメーターが適切なレベルに設定されているか確認してください。

■ボーカルをより明瞭にしたい

- SPEECH/BASSスイッチをSPEECHに設定してください。
- EQ(HIGH/LOW)が適切なレベルに設定されているか確認してください。

■スピーカーの音をより力強くしたい

- SPEECH/BASSスイッチをBASSに設定してください。
- EQ(HIGH/LOW)が適切なレベルに設定されているか確認してください。

